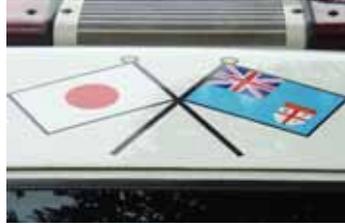


\* この事業は日本大使館の「草の根・人間の安全保障無償資金協力」により実現致しました。

# フィジー諸島共和国

セント・ジョン・アソシエーション(NGO)へ  
救急車を寄贈



対象地域：セント・ジョン・アソシエーション(NGO)  
内 容：救急車2台【埼玉県・群馬県の自治体より供出】  
輸送過程：2006年12月 横浜港より出港  
                  12月 スバ港入港  
                  2007年 1月 車両引渡しセレモニー

## 南太平洋の美しい島国“フィジー”

フィジー諸島共和国は330個もの島々からなる国です。日本から南へ約7,000 Km離れた南太平洋のほぼ中央部に位置し、各月の平均気温は23～28度と年間を通して気候に恵まれています。首都スバは、南太平洋唯一の港町であり、世界各国から客船や漁船がやってきます。スバはフィジー最大の市場をもち、南国野菜やフルーツ、魚などが豊富にあります。街はとても賑やかで、植民地時代の建築が多く残されているため、異国情緒が漂っています。人口約83万人のこの国には、年間45万人の観光客が訪れ、観光が最大の産業となっています。

## セント・ジョン・アソシエーションってどんな団体？

イギリスに本部のある国際NGOで、40以上の国々で民間救急活動を行っています。フィジーでは1939年に活動が開始されました。同NGOの救急サービスには定評がありますが、老朽化した車両の更新が必要となったため、日本大使館へ支援が要請されました。

車両は、首都スバのあるビチレブ島の中でも、特に観光客の多い海岸沿いから高地にかけての地域で利用され、この地域だけでも年間25万人もの人々に役立てられると予想されています。

## 救急車活躍の現場の報告

日本外交協会から寄贈した救急車2台は、2007年1月にセント・ジョン・アソシエーションに引渡されました。その後、同年4月に在フィジー日本大使館のスタッフから、この救急車が活用されている様子を見たとの報告を受けました。海外出張からフィジーに戻る際、飛行機に病人が乗っていたようで、フィジーに到着後、空港を出ると救急車後部に日本外交協会と書かれたセント・ジョン・アソシエーションの救急車が待機しており、患者を病院へ緊急搬送したとのこと。救急車が本来の目的どおり活用されていることを確認できたとの報告を受け、私達もたいへん嬉しく感じています。今後も幅広い活躍が期待されます。



資金供与の署名式：滑川大使、  
セント・ジョン事務局長ババロア氏



滑川大使とセント・ジョン理事長



引渡しセレモニー：鍵の贈呈



引渡しセレモニーの様子



救急車の内部を見学する関係者達



セント・ジョン・アソシエーションのスタッフたち

\* この事業は日本大使館の「草の根・人間の安全保障無償資金協力」により実現致しました。

---